シリーズ〝創る〟(7)

# 関口裕子
# 染色作品展

シリーズ〝創る〟(7)

# 関口裕子　染色作品展

会期　二〇一五(平成二七)年一月一五日(木)―三月四日(水)
会場　日本女子大学成瀬記念館

# ごあいさつ

日本女子大学成瀬記念館では、造形芸術の分野で活躍する本学卒業生を紹介する企画展示シリーズ“創る”を行っています。このたび、シリーズ“創る”（７）として、「関口裕子染色作品展」を開催することとなりました。

関口裕子氏は、日本女子大学附属中学校・高等学校を経て、日本女子大学家政学部生活芸術科（住居専攻）に進みました（新制10回生）。卒業した後も、住居学科の卒業生として描くことを続けていたいと感じていた関口氏は、染色と出会い、彩路会主宰である竹田十路の元で23年間にわたり絵更紗を学びました。その後ロウケツ染め、友禅染めを大澤敏氏に師事し、現在に至ります。

1998（平成10）年には太平洋美術会に初入選、以後毎年入選し2001年に会友、2005年に会員となりました。個展も開催する一方で、「桜楓会創作工芸研究会」や住居学科卒業生有志による「すみの会」など日本女子大学の卒業生としての活動もされてきました。近年では、いも版染色講習会の講師を務めるなど、その活躍の場をさらに広げています。

色彩にあふれる作品には、関口氏の明るく温和な人柄が窺え、見る者の心を暖かくしてゆきます。「染色」という、時間をかけた工程が関口氏の描き出す文様と響き合い、作品にさらなる深みを増してゆくのです。そして、結婚、子育てをしながらも描き続けたいという関口氏の想いが、作品にさまざまな表情を生みだしています。

どこか懐かしい気持にさせてくれる文様、美しい色彩をご覧いただき、作品の中にゆったり流れる時間をどうぞ体感してみてください。

日本女子大学成瀬記念館

# ごあいさつ

このたび、はからずも日本女子大学成瀬記念館での作品展にお招きくださり、夢ではないかと思うほど感激致しております。大変名誉なことと思い身の引き締まることでございます。

私が日本女子大学附属中学校に入学致しましたのは昭和25（1950）年で、ようやく日本に自由の光がさしてきたころでした。戦争で疎開、そして焼けてしまった校舎の跡地での小学校生活では得られなかったことも多く、附属での生活の第一歩はカルチャーショックでした。その中で最初に感じた喜びは、木版で小さい額を作り自由な色付けを指導してくださった図工の時間で、私の大きな自信となりました。また高校の時は、美術や社会で日本の古い建築物や仏像のお話を高校生以上のレベルでうかがえたことが私の方向性を決めるきっかけとなり、大学では住居学科で勉強することがかなえられました。

染色への道を選ぶことになったきっかけは、ある知り合いの小さい作品でした。それは初めて聞く絵更紗という分野でした。昭和44年竹田十路絵更紗研究所の入門を許されました。おだやかな中にも鋭い美意識を感じ取り、私の染めの道への決心がつきました。絵更紗には、のり描き、いも版、そのほかの技法があります。いも版は一般の染め同様、形、線、色を重視し、ことに布の風合いに対し押す力によって表現を変える難しさがあり熟練を要します。その後、友禅染め、ロウケツ染めの大澤敏先生のご指導を得て自由に染める手法で今日に至っています。

この間、桜楓会創作工芸研究会で実用的なスカーフ、バッグ、ネクタイなど生活感のある作品を出品販売する機会に恵まれ、また住居学科小川信子先生の発案で「すみの会」が発足してからは初回から参加し、墨色を中心に作品を仕上げるという勉強の機会が与えられました。

1998年、太平洋美術会公募展の染織部に初出品で入選、以降毎年入選させていただいています。いくつかの手法を使っての表現に対してご理解くださっている太平洋美術会の石川綱洋先生はじめ諸先輩に感謝致しております。

今年古希を迎えた私に大きなプレゼントを母校から賜り、50年近くにわたって染め一筋に続けられた幸せをかみしめています。

指導・助言を賜りました恩師、友人、知人に心より御礼申し上げます。

関　口　裕　子

# 関口裕子「染色作品展」によせて

彩も美しくモザイクのように敷き詰められた文様が組み合されて、さらに大きな形象へと展開する装飾的な画面。額、掛物、屏風、テーブルセンター、そして着物から帯。関口さんが手がける染色には、インテリアとしての鑑賞を目的とした室内装飾品と、着物や帯のように伝統的で古典的な用に供される作品とがあります。

布帛に色や文様を染めつけて文様を表す染色の技法は、日本では「衣」を中心に発展してきたため、インテリアのような装飾作品を手がける染色作家が出現するのは比較的遅く、近代以降、特に染付が容易な合成染料が開発されてからの傾向とみられます。現在では二次元の平面を造る創作の一手段として、絵具や顔料の代わりに染料を使っているという感覚の作家も多く登場しています。それも結構なことではありますが、ただ染料を絵の具のように使うだけでは染色作品である必要もないでしょう。染物や織物に表現される文様の面白さは、キャンバスに絵筆で直接的に表現されるものではなく、いくつもの工程と時間をかけて織り出される、あるいは染め出されるものです。そのいくつもの工程や作業を経て、デザインは余分な部分を削ぎ落とされ、初めて単純で明快な工芸独特の様式化を生み、パターンへと変化します。

特に染文様においては、昔から手描きや型によって顔料を使って直接に「描く」「摺る」という方法もありました。しかし一方、天然染料で堅牢な染め色を得るためには、どうしても浸染が不可欠であり、そのために糊や蝋の防染が必要とされたのです。染色文様の特色や面白さは、そうした文様を染め表すためのさまざまな工夫や工程、あるいは型を使う手段の違いから生まれると私は思っています。

関口さんはそうしたことを充分に理解されておられたのでしょう、1960年代から絵更紗の作家として知られた故竹田十路氏に師事して染色の基本といも版の技法を学び、その後に糊や蝋の防染技法による所謂友禅染や蝋染めなどを習得され、また新しい染料についても熱心に研究されました。したがって作品を

創るに当たって、一つの技法に拘泥することなく、作品に応じてその都度、糊や蝋、手挿し、いも版と選び分け、それらを単独で用いたり、組み合わせたり、あるいは美しい線描きを加えながら自由に作品造りを行われる。それは一つの技法を追求する伝統工芸作家とは全く立場を異にするものですが、その屈託のない伸びやかさが、関口作品の魅力へとつながっています。

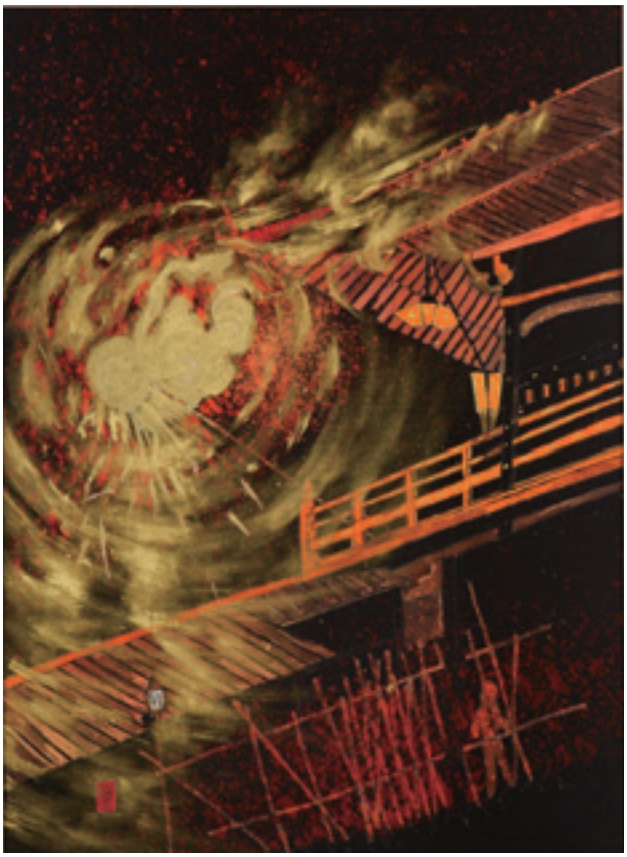
しかしご本人も認めるように、何といってもいも版を使った作品がやはり関口さんの代表的な染色技法となっています。いも版の染には独特の優しい風趣があります。年賀状をいも版で作られた経験をお持ちの方ならご存知のように、この材料は時間が経つと干からびて使えなくなり、使い廻しはできません。これは職人の作業には最も向かない不確定な要素です。職人が使ってきた染の型は、古来木型や銅型、あるいは漆で固めた紙型でした。したがっていも版というと、どうしても素人っぽい趣味的な遊びのイメージがついて廻ります。しかしその不確定さを逆手にとり、作品ごとに新しいいも版造りに挑戦することで、新しいエネルギーを作品に注ぐことができたとも言えるでしょう。

関口さんという作家を存じあげたのは十年以上も前、私が担当していた染織文化史の授業に聴講生として出席され始めたのがきっかけでした。当時すでに作家として活躍されておられたにもかかわらず、毎週欠かさず受講される真摯な姿に驚かされると同時に、かつての女子大生はかくありなんと思わせる凛とした佇まいが強く印象に残っています。また最近になって、作品の中で日本家屋のみが際立って生真面目な描写になるのは、「日本家屋を描く時は、いつも住居学科の学生に戻ったように背筋が伸びる」とお聞きし、なるほどと頷かされました。

最後に、関口裕子さんの作品展が日本女子大学成瀬記念館において開催されますことに、心よりお慶び申し上げます。そしてまた、この展覧会が染の面白さを学生に伝え、刺激となることを願ってやみません。

小笠原小枝（おがさわらさえ）
日本女子大学名誉教授

1　「サンクトゥス」　1999年
第95回太平洋展



２　「お水取り」　2014年
第110回太平洋展

４　「田貫湖の富士」　2005年
個人蔵

３　「天使の町」　1998年
第94回太平洋展

７　「グッビオのクリスマス」　2007年
太平洋美術会東京支部展

5 「生　パート3」 2005年

6 「愛の誕生」 2000年
第96回太平洋展

8　「タイムトンネルの広場」　2008年

9　「古い巡礼の村」　2005年

10 「アルザスのこうのとり」 2008年

11 「ダリ劇場」 2008年
太平洋美術会東京支部展

12 「夕暮れのチュイルリー」 1996年

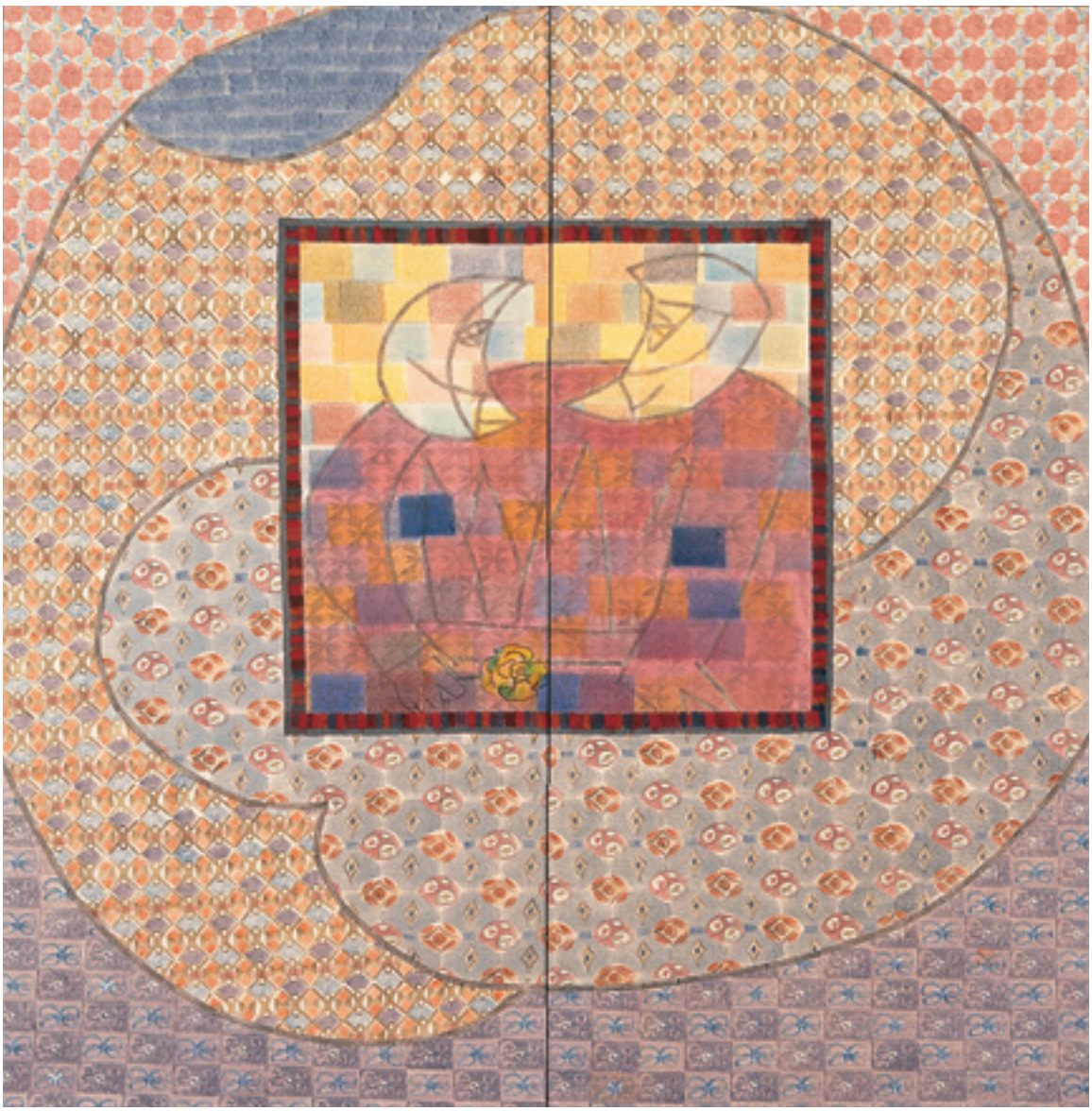
13 「京の五月」 1999年

14 「清心」 2004年
第100回太平洋展奨励賞

15 「ベネチアの心」 2005年
第101回太平洋展

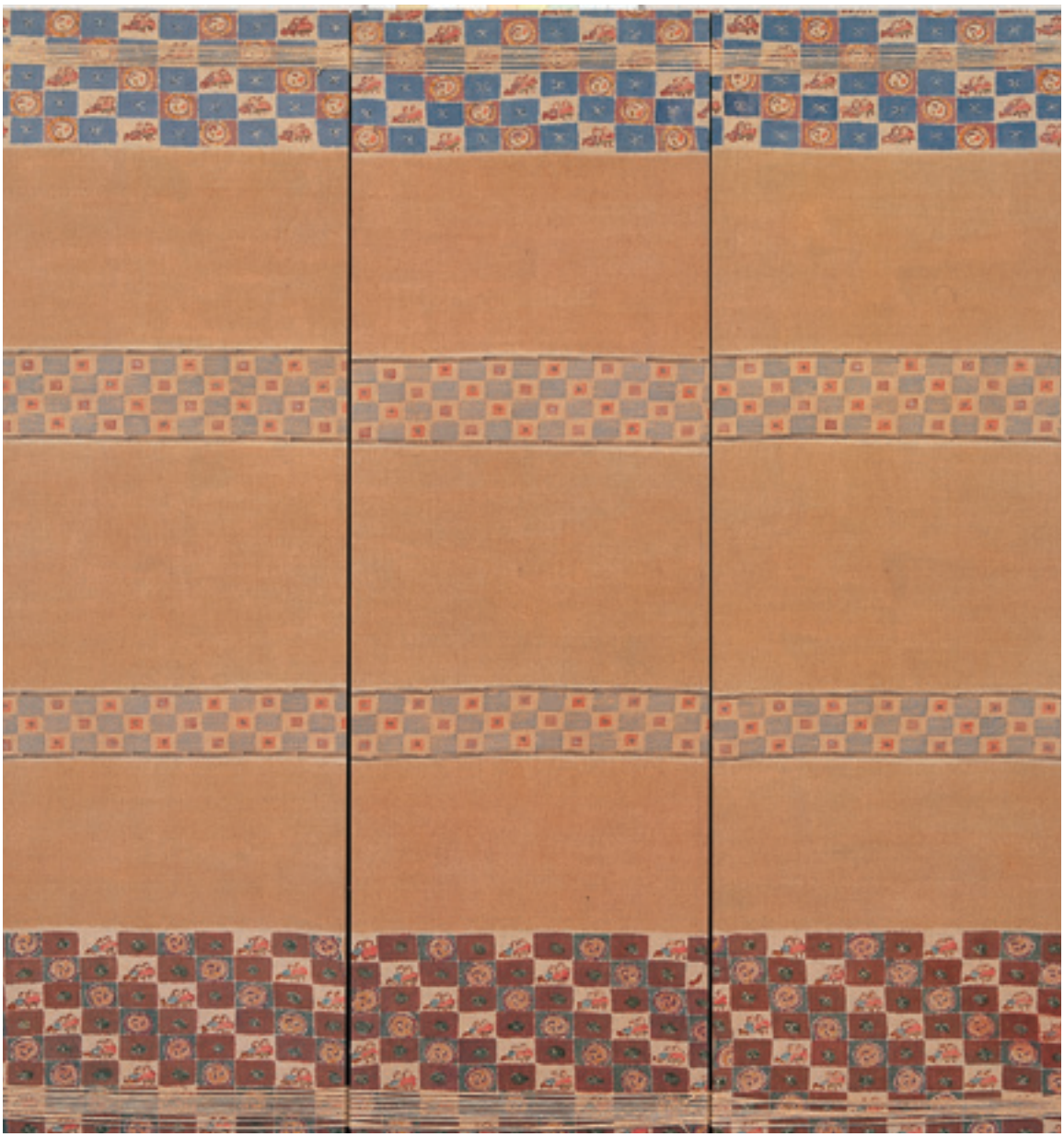
16 「東湖」 2012年
すみの会展

17 「春遠からじ」 2012年
第108回太平洋展



20 「屏風：一輪のバラ」 1996年
個人蔵

18 「屏風：房総の思い出(表)」 1990年



19 「屏風：房総の思い出(裏)」

21 「着物：薬王院の桜」 1999年

22 「着物：オランダからの花開く」 2013年
第109回太平洋展

23 「着物：天河」 2009年
第105回太平洋展会員秀作賞

24 「着物：青春」 2007年
第103回太平洋展

25 「名古屋帯」 1979年

26 「帯：グラリオサ」 2007年

27 「帯：桜楓のサクラ」 2014年　　28 「帯：桜楓のモミジ」 2014年

29 「祈り」 2010年
第106回太平洋展

30 「アングルの古城」 2005年

31 「遺産」 1998年
太平洋美術会千葉支部展

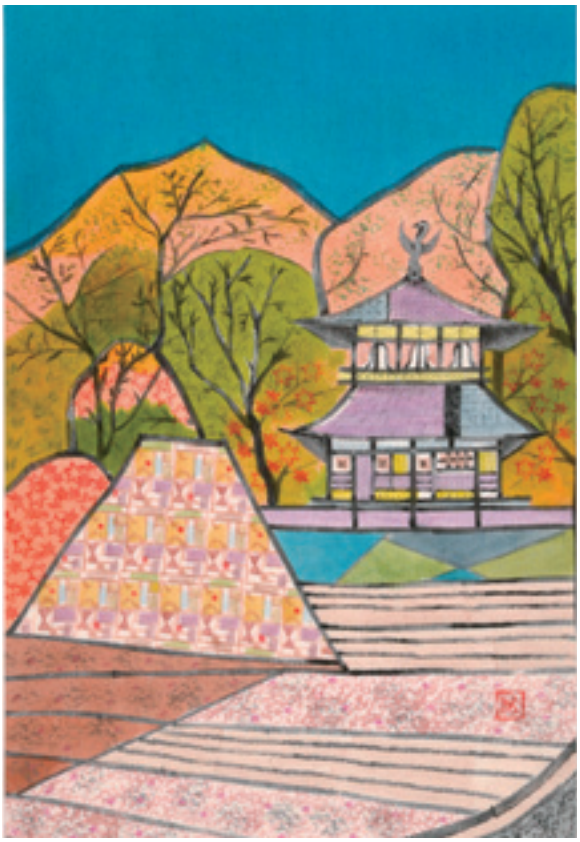
34 「海の日」 2011年
第107回太平洋展

32 「海人(あまびと)」 2008年

33 「白川村の宿」 2004年
すみの会展

35 「ムスティエ・サント・マリ」 2008年
第104回太平洋展

36 「正月の祈り」 2014年



37 「秋の銀閣」 2014年

38 「弥勒を訪ねて」 2014年

39 「向暑」 2002年
太平洋美術会東京支部展佳作賞

40 「軸：清風明月」 1988年
彩路会横浜高島屋展

41 「軸：椿」 1981年

# 出品リスト

| No. | 作品名 | 制作年 | 技法 | 出品・受賞 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | サンクトゥス | 1999年 | いも版 | 第95回太平洋展 |
| 2 | お水取り | 2014年 | ロウケツ | 第110回太平洋展 |
| 3 | 天使の町 | 1998年 | のり描き・いも版 | 第94回太平洋展 |
| 4 | 田貫湖の富士 | 2005年 | のり描き | 個人蔵 |
| 5 | 生　パート3 | 2005年 | ロウケツ | |
| 6 | 愛の誕生 | 2000年 | のり描き・いも版 | 第96回太平洋展 |
| 7 | グッビオのクリスマス | 2007年 | ロウケツ | 太平洋美術会東京支部展 |
| 8 | タイムトンネルの広場 | 2008年 | のり描き・いも版 | |
| 9 | 古い巡礼の村 | 2005年 | のり描き | |
| 10 | アルザスのこうのとり | 2008年 | いも版 | |
| 11 | ダリ劇場 | 2008年 | のり描き | 太平洋美術会東京支部展 |
| 12 | 夕暮れのチュイルリー | 1996年 | のり描き | |
| 13 | 京の五月 | 1999年 | いも版 | |
| 14 | 清心 | 2004年 | のり描き | 第100回太平洋展奨励賞 |
| 15 | ベネチアの心 | 2005年 | いも版 | 第101回太平洋展 |
| 16 | 東湖 | 2012年 | ロウケツ | すみの会展 |
| 17 | 春遠からじ | 2012年 | ロウケツ | 第108回太平洋展 |
| 18 | 屏風：房総の思い出（表） | 1990年 | のり描き | |
| 19 | 同　（裏） | | | |
| 20 | 屏風：一輪のバラ | 1996年 | いも版 | 個人蔵 |
| 21 | 着物：薬王院の桜 | 1999年 | いも版・ロウケツ | |
| 22 | 着物：オランダからの花開く | 2013年 | いも版 | 第109回太平洋展 |
| 23 | 着物：天河 | 2009年 | いも版 | 第105回太平洋展会員秀作賞 |
| 24 | 着物：青春 | 2007年 | いも版 | 第103回太平洋展 |
| 25 | 名古屋帯 | 1979年 | いも版 | |
| 26 | 帯：グラリオサ | 2007年 | いも版 | |
| 27 | 帯：桜楓のサクラ | 2014年 | ロウケツ | |
| 28 | 帯：桜楓のモミジ | 2014年 | ロウケツ | |
| 29 | 祈り | 2010年 | のり描き・いも版 | 第106回太平洋展 |
| 30 | アングルの古城 | 2005年 | のり描き | |
| 31 | 遺産 | 1998年 | のり描き | 太平洋美術会千葉支部展 |
| 32 | 海人（あまびと） | 2008年 | のり描き | |
| 33 | 白川村の宿 | 2004年 | ロウケツ | すみの会展 |
| 34 | 海の日 | 2011年 | ロウケツ | 第107回太平洋展 |
| 35 | ムスティエ・サント・マリ | 2008年 | いも版 | 第104回太平洋展 |
| 36 | 正月の祈り | 2014年 | のり描き | |
| 37 | 秋の銀閣 | 2014年 | いも版 | |
| 38 | 弥勒を訪ねて | 2014年 | のり描き・いも版 | |
| 39 | 向暑 | 2002年 | ロウケツ | 太平洋美術会東京支部展佳作賞 |
| 40 | 軸：清風明月 | 1988年 | いも版 | 彩路会横浜高島屋展 |
| 41 | 軸：椿 | 1981年 | のり描き | |

## ＜作品ノート＞

２．お水取り

奈良・東大寺二月堂のお水取りはテレビで何回か見てきましたが、実際に目の前で行事に接すると体中がふるえるような感動を覚えました。たまたま修行僧が使う紙手（こうで・紙の物入れ）を依頼され、いも版の絵をお納めしたことで思いも格別でした。

４．田貫湖の富士

三島から入って次の日の早朝、スケッチブックとカメラを手に待ちましたが、小雨!!しかし富士山を見つめていると幸いにも雨が止み太陽が姿を見せました。自然の移り変わる風景への驚きが制作のもとになりました。

７．グッビオのクリスマス

イタリア中部、中世の町並みが残るグッビオに着いたのはクリスマス近いころでした。夜、案内されるままに暗い道を進み、ふと後ろを振り向くと山一面にクリスマスツリーの形に照明が映えていて、強い印象となって残りました。

14.　清心

ヨーロッパのキリスト教会は石造りが多い中で、ここベルギー・ブルージュ中心部にある聖血礼拝堂の中は東洋的な色彩に包まれており感銘を受けました。この教会は十字軍遠征にゆかりがあります。

16.　東湖

井上ひさし氏の演劇を通しての日中学生交流にお誘いを受け上海、杭州に行きました。初めて見る中国の風景は絵にしたい場所が多く、東湖はその一つです。岩山ながら樹木にもおおわれ、湖には日本では見られない烏篷船（うほうせん・客を乗せる黒い小舟）がのどかに浮かんでいました。

17.　春遠からじ

冬晴れの美しい空の下に広がる函館山とカトリック教会付近を思い出して染めました。かつて５年間、函館山中腹に住み、教会に接する幼稚園までの娘の送り迎えに思いをめぐらして…

22.　着物：オランダからの花開く

娘の家族がオランダに住んだ時にチューリップの球根を送ってきたので、狭い庭先に植え育てたものをスケッチしました。オランダのチューリップは幾分大きめの花を見せてくれ、この着物の花はほぼ実物大です。

23.　着物：天河

大好きな紫色を基調として私の着る訪問着を染めました。細かい模様をいもに彫るには、まず、さつまいもが固くないと線の美しさが出ません。幸い、色と形の調子がそろい、太平洋美術会会員秀作賞をいただくことが出来ました。

27. 28.　帯：桜楓によせて

10年間学んできた母校のシンボル「桜楓」で表現してみました。若き日を思い、新しさを追求しながら作り上げたものです。

29.　祈り

この作品を制作した前年から大切な恩師が天国に召されたり、私が入院したりしたことから「祈り」というテーマが生まれました。シチリア島で見たモザイクの遺物などを思い出しながらいも版で表現してみました。

31.　遺産

ポルトガルの海岸に近いアヴェイロの町での印象を染めてみました。小舟には観光用に酒樽が積み込まれていました。ポルトガル名物のブルーで描かれた陶器、アズレージョが建築物をはじめいたるところで見られ、この女性が歩く姿には変らぬ伝統を感じました。

34.　海の日

2011年３月初めにこの作品を仕上げホッとしたところへ東日本大震災が起きました。かつて住んだ街も被害を受け、この作品の出展はあきらめようと思いました。しかしこのサケもカニも毎年送られた大切な方のプレゼントで、様々な思いがこもっています。

36. 正月の祈り　37. 秋の銀閣　38. 弥勒を訪ねて

2014年の正月は、成瀬記念館からのお話を聞き気持を引き締め、懐かしい京都で元旦を迎え、３点を新たに染めました。36.「正月の祈り」は、餅花の飾られた部屋、古い塗り物の食器にのった料理がもと。38.「弥勒を訪ねて」は、高校生のころレポートに書いた「弥勒菩薩」との対面。静かな広隆寺でやさしさをたたえておいででした。

40.　軸：清風明月

上海美術館の方が書いてプレゼントしてくださった書がもととなり、その感動を軸として表現しました。表装によって感動が一段と増しました。

# 略　　歴

1937年　東京都荒川区に生まれる

1950年４月　日本女子大学附属中学校入学

1953年４月　日本女子大学附属高等学校目白校入学

1956年４月　日本女子大学家政学部生活芸術科（住居専攻）入学

1960年３月　同　上　卒業　卒業論文：「居間の色彩」

1960年　CDSカラーデザインスクール修了

1960年４月～ 61年10月　東京大学工学部建築学科小木曽定彰研究室研究生

1969年～ 92年　絵更紗を彩路会主宰・竹田十路に師事

1991年　桜楓会創作工芸研究会（日本女子大学OG）会員

1992年　東京六本木、プラムギャラリーで屏風展

1995年～　ロウケツ染め、友禅染めを大澤敏氏に師事

1997年３月　東京銀座、松崎画廊で第１回個展

1998年５月　太平洋美術会公募展染織部門に初入選、以後毎年入選

1998年５月　東京世田谷文化生活情報センター生活工房で講師

2000年３月　第２回個展（銀座松崎画廊）

2001年５月　太平洋美術会会友

2001年７月～　すみの会（日本女子大学家政学部住居学科OG）会員

2002年５月　太平洋美術会創立100周年記念展で道芳賞受賞

2002年９月　太平洋美術会東京グループ展で佳作賞受賞

2002年11月　第３回個展（銀座松崎画廊）

2004年５月　太平洋美術会第100回公募展で太平洋美術会奨励賞受賞

2005年５月　太平洋美術会会員

2005年12月　第４回個展（銀座松崎画廊）

2009年１月　第５回個展（銀座松崎画廊）

2009年５月　太平洋美術会第105回公募展で太平洋美術会会員秀作賞受賞

2009年11月　『染色作品集』刊行（私家版）

2009年12月　太平洋美術会染織部運営委員に選出され、現在に至る

2010年６月　井上ひさし作品による日中学生文化交流「演劇と環境」に参加し、上海などへ

2014年７月　太平洋美術研究所主催「いも版染色講習会」講師

目次

ごあいさつ　成瀬記念館 …… 2

ごあいさつ　関口裕子 …… 3

関口裕子「染色作品展」によせて　小笠原小枝 …… 4

図版 …… 6

出品リスト ……31

作品ノート ……32

略歴 ……35

発行／日本女子大学成瀬記念館
〒 112-8681　東京都文京区目白台 2-8-1

製作／瞬報社写真印刷株式会社

©2015 Japan Women's University